

学習指導資料

「学習評価の事例集」（宮城県版）

高等学校

第2編（各教科）

福祉

令和4年1月

宮城県教育委員会

仙台市教育委員会

石巻市教育委員会

<各事例概要一覧と事例>

(P. 3～8)

事例1 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで、「主体的に学習に取り組む態度」の評価
科目 「社会福祉基礎」 単元「コミュニケーションの基礎」

本事例は、指導項目「(2) 人間関係とコミュニケーション」の小項目「イ コミュニケーションの基礎」(全4時間)として、指導と評価の計画から総括までについて示している。

教科書を用いて基礎的な知識を理解し(知識・技術)、グループやペアで事例や演習に取り組み(思考・判断・表現)、発表を行う(主体的に学習に取り組む態度)という展開に沿って観点別学習状況の評価を進めている。「主体的に学習に取り組む態度」の観点では、グループでの話し合いや発表、演習など多様な学習内容を取り入れているため、グループ活動やペア学習に主体的かつ協働的に学び、分かりやすく表現しているかを評価する。

(P. 9～14)

事例2 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで、「思考・判断・表現」の評価
科目 「介護福祉基礎」 単元「福祉用具と介護ロボット」

本事例は、指導項目「(4) 介護における安全と危機管理」の小項目「エ 福祉用具と介護ロボット」(全7時間)として、指導と評価の計画から総括までについて示している。

教科書を用いて基礎的な知識を理解し(知識・技術)、ゲストスピーカーの講話やインターネットを活用して課題に取り組み、(思考・判断・表現)、グループでの話し合いや発表を行う(主体的に学習に取り組む態度)という展開に沿って観点別学習状況の評価を進めている。「思考・判断・表現」の観点では、個人で課題に取り組み、思考力や判断力、表現力が身に付いているかを評価するため、課題に取り組んでいる過程でのきめ細やかな支援が求められる。

(P. 15～21)

事例3 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで、「主体的に学習に取り組む態度」の評価
科目 「生活支援技術」 単元「歩行介助」

本事例は、指導項目「(2) 自立に向けた生活支援」の小項目の「エ 移動の支援」から、「歩行介助」を1つの単元(全4時間)として、指導と評価の計画から評価の総括までについて示している。

教科書の記述内容から基礎的な知識を理解し(知識・技術)、その知識を基に実技実習に取り組み(思考・判断・表現)、実技実習を記録した動画で振り返り、適切な介助について話し合いを行う(主体的に学習に取り組む態度)という展開に沿って観点別学習状況の評価を行っている。また、「主体的に学習に取り組む態度」の観点では、単元の学習を振り返り、グループ内で相互に意見を出し合い、良かった点や気づきをワークシートに記入し、適切な介助方法を見つけ出そうとしている態度を評価の対象としている。

(P. 22~28)

事例4 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで、「主体的に学習に取り組む態度」の評価
科目 「生活支援技術」 単元「衣類の着脱介助」

本事例は、指導項目「(2) 自立に向けた生活支援」の小項目「ウ 身じたくの支援」から「衣類の着脱介助」を1つの単元(全4時間)として、指導と評価の計画から評価の総括までについて示している。

教科書の記述内容から基礎的な知識を理解し(知識・技術)、その知識を基に実技実習に取り組み(思考・判断・表現)、実技実習を記録した動画で振り返り、適切な介助について話し合いを行う(主体的に学習に取り組む態度)という展開に沿って観点別学習状況の評価を行っている。また、「主体的に学習に取り組む態度」の観点では、単元の学習を振り返り、グループ内で相互に意見を出し合い、良かった点や気づきをワークシートに記入し、適切な介助方法を見つけ出そうとしている態度を評価の対象としている。

(P. 29~36)

事例5 キーワード 「思考・判断・表現」評価の一考察
科目 「こころとからだの理解」 単元「高齢者と健康」

本事例は、指導項目「(3) 発達と老化の理解」の小項目「ウ 高齢者と健康」(全20時間)を一つの単元として、指導における観点別学習評価について示している。既習内容をもとに心身の構造や機能をまとめ、系ごとの代表的な疾患を自分で調べる。次にグループ内でまとめたものを発表し、知識の共有を図る。その後、系ごとの根拠に基づいた支援内容を考えるようにした。ワークシートを用いて、段階的に「思考・判断・表現」を評価できるよう工夫し、また、グループ内での発表と話し合い、クラス内での発表・評価を加えることで「主体的に学習に取り組む態度」を評価できるようにした。

(P. 37~45)

事例6 キーワード 調査研究の実施における「知識・技術」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の一考察

科目 「介護総合演習」 単元「地域福祉についての調査・研究」

本事例は、指導項目「(3) 調査, 研究, 実験」(全39時間)を一つの単元として、指導における観点別学習評価について示している。時事問題となっている新型コロナウイルス感染症の後期高齢者への影響を踏まえ調査研究することで、課題解決の能力や自発性・創造性を高めることを目的としている。福祉に関する他の教科で得た知識を関連づけ、課題を明確にし、科学的根拠に基づいた解決方法を考え、実践していく過程で「知識及び技術」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力, 人間性等」の育成すべき資質・能力を身に付けさせ、評価できるよう工夫している。

福祉科 「社会福祉基礎」事例1

キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

単元名

コミュニケーションの基礎

〔指導項目〕

(2) 人間関係とコミュニケーション
イ コミュニケーションの基礎

本単元では、人間関係を構築するための技法、基本的なコミュニケーションの技法、社会福祉援助活動の概要に関する学習活動を通し、人間関係の形成やコミュニケーション及び社会福祉援助活動の意義や役割などとともに、援助活動に必要な組織のマネジメントとして運営管理・人材管理・リーダーシップなどについても理解できるようにすることをねらいとしている。

1 単元の目標

- (1) コミュニケーションの基礎について理解するとともに、関連する技術を身に付けること。
- (2) コミュニケーションについての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決すること。
- (3) コミュニケーションについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むこと。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
コミュニケーションの基礎について理解しているとともに、関連する技術を身に付けようとしている。	コミュニケーションについての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	コミュニケーションについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（13時間）

ア 人間関係の形成	3時間	
イ コミュニケーションの基礎	4時間	事例
(1) コミュニケーションの意義と役割	(1時間)	
(2) コミュニケーションの種類と手段	(3時間)	
ウ 社会福祉援助活動の概要	6時間	

時間	【ねらい】・学習活動	評価		備考（評価規準・ 評価方法 ）
		観 点	記 録	
1	【ねらい】 対人支援におけるコミュニケーションの意義について考える。			
	① コミュニケーションの意味を理解している。	知	○	① コミュニケーションとは何かを理解している。 定期考査 ワークシート①
	② 事例を基に、利用者とのよりよいコミュニケーションの取り方について考える。	思	○	② 利用者とのコミュニケーションの取り方について考察し、

	<p>事例</p> <p>佐々木さんは5日間の予定でショートステイを利用することになり入所してきました。しかし、入所間もなく「いつになったら帰宅できるのですか。早く帰りたい。」と暗い表情で介護職員であるあなたに訴えてきました。あなたならどのような言葉を返し、どのような行動を取りますか。理由とともに説明してください。</p> <p>③グループで話し合った内容をまとめ、発表する。</p> <p>④対人支援におけるコミュニケーションの意義が分かる。</p> <p>⑤コミュニケーションを構成する要素が分かる。</p>		<p>分かりやすく表現している。</p> <p>ワークシート①</p> <p>○ ③利用者とのよりよいコミュニケーションの取り方について協働的に学び合おうとしている。</p> <p>観察 ワークシート①</p> <p>自己評価</p> <p>○ ④対人支援におけるコミュニケーションの意義について適切に記述している。</p> <p>定期考査 ワークシート①</p>
<p>2</p> <p>・</p> <p>3</p> <p>・</p> <p>4</p>	<p>【ねらい】 コミュニケーションには大きく分けて言語・非言語の2種類あることを理解する。</p> <p>①コミュニケーションには言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションがあることを理解する。</p> <p>②演習を通して、言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションが相手に与える印象について記入する。</p> <p>二人一組になり、話をする役、話を聞く役に分かれて演習を行う。話を聞く役は、各演習の①②の指示どおりに話を聞く。①②終了後に役割を交代する。</p> <p>演習1 うなずきと相づちの体験</p> <p>①横を向いて、無反応で話を聞く。</p> <p>②うなずくとともに合間に「そうですか」などの相づちを打ちながら話を聞く。</p> <p>演習2 繰り返しの体験</p> <p>①一言一言「〇〇ですね」と繰り返しながら話を聞く。</p> <p>②ちょうど切りのよいところで「〇〇ですね」と繰り返して話を聞く。</p>	<p>知</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>態</p>	<p>○ ①コミュニケーションの種類について適切に記述している。</p> <p>定期考査 ワークシート②</p> <p>○ ②コミュニケーション演習に主体的に参加し、言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションが相手に与える印象について記入している。</p> <p>観察 ワークシート②</p>

	<p>演習3 話の速度の体験</p> <p>①「〇〇さん、こんにちは。今日の花柄のブラウスとてもお似合いですね。」と3秒程度で早口で話す。</p> <p>②「〇〇さん、こんにちは。今日の花柄のブラウスとてもお似合いですね。」と6秒程度でゆっくり話す。</p> <p>演習4 目線の体験</p> <p>①立った状態で、ポケットに手を入れ、視線を向けたまま話を聞く。</p> <p>②座った状態で、視線を合わせたり逸らしたりしながら話を聞く。</p> <p>演習5 姿勢の体験</p> <p>①椅子に浅く座り、腕組みをして話を聞く。</p> <p>②椅子に深く座り、話を聞く。</p>			<p>③演習での学びから、利用者に関わる際に気を付けることについてまとめ、発表する。</p> <p>④ICTを活用したコミュニケーションやコミュニケーションロボット等、多様化するコミュニケーションの手段が分かる。</p> <p>態 ○ ③利用者との関わり方について多面的・多角的な視点から考察し、分かりやすい発表に向けて粘り強く取り組もうとしている。</p> <p>ワークシート②</p>
--	---	--	--	---

4 観点別評価の進め方

本事例は、教科書を用いて基礎的な知識を理解し（「知識・技術」）、事例や演習を基にワークシートに取り組み、「思考・判断・表現」、発表を行う（「主体的に学習に取り組む態度」という授業形態となっている。

（1）知識・技術

教師が座学による授業を行い、ワークシートに記入させる場面と定期考査において、「知識・技術」の評価を行う。ワークシートの評価は、教師が正しく記入されているかを確認することで行う。また、定期考査においては、基礎的な知識の習得を問う問題を出題し、解答の状況を確認する。

	「おおむね満足できる」状況（B） ※学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況（A）と判断した具体例	「努力を要する」状況（C）と判断した生徒への指導の手立て
ワークシート ①-①	・コミュニケーションの意味についておおむね理解している。	・コミュニケーションの意味について十分理解している。	・教科書の内容を確認させ、コミュニケーションの意味を理解するよう支援する。
ワークシート ②-①	・コミュニケーションの種類についておおむね理解している。	・コミュニケーションの種類について十分理解している。	・教科書の内容を確認させ、コミュニケーションの種類を理解するよう支援する。

(2) 思考・判断・表現

事例にグループで取り組み、発表するという機会を設けている。他者と話し合い、意見を交換する過程の中でよりよい解答を導き出すことができると考えるからである。また、「コミュニケーションの基礎的な技法について扱う」こととなっているため、基礎的な技法が含まれている5つの演習を取り上げ、言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションが相手に与える印象について考察する場面を設定した。評価の方法としては、評価基準が求めている発言や記述が行われているかを確認する方法で行う。

	「おおむね満足できる」状況 (B) ※学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況 (A) と判断した具体例	「努力を要する」状況 (C) と判断した生徒への指導の手立て
ワークシート ①-②	・利用者とのよりよいコミュニケーションの取り方について、おおむね具体的に考察し、記述している。	・利用者とのよりよいコミュニケーションの取り方について、具体的に考察し、分かりやすく表現している。	・利用者の発言の意図や表情を考えてみるよう指示する。
ワークシート ①-④	・対人支援におけるコミュニケーションの意義についておおむね具体的に考察し、記述している。	・対人支援におけるコミュニケーションの意義について具体的に考察し、分かりやすく表現している。	・利用者に関わる際のコミュニケーションの役割について質問しながら、意義に気付くよう支援する。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

グループでの話し合いや発表、演習など多様な学習活動を取り入れている。評価については、主体的かつ協働的に学習に取り組んでいるかを教師による観察や発表、ワークシートの取り組み状況、生徒自身の自己評価などで評価する。

	「おおむね満足できる」状況 (B) ※学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況 (A) と判断した具体例	「努力を要する」状況 (C) と判断した生徒への指導の手立て
ワークシート ①-③	・利用者とのよりよいコミュニケーションの取り方について、おおむね協働的に学び、分かりやすい発表に向けて粘り強く取り組もうとしている。	・利用者とのよりよいコミュニケーションの取り方について、主体的かつ協働的に学び、分かりやすい発表に向けて粘り強く取り組んでいる。	・利用者の気持ち等を質問しながら、課題に気付くよう支援する。
ワークシート ②-②	・コミュニケーション演習に取り組み、言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションが相手に与える印象について記述している。	・コミュニケーション演習に主体的に取り組む、言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションが相手に与える印象について分かりやすく表現している。	・演習を行った感想を質問し、コミュニケーションが相手に与える印象に気付くよう支援する。
ワークシート ②-③	・利用者との関わり方について、多面的かつ多角的な視点から考察し、分かりやすい発表に向けて粘り強く取り組もうとしている。	・利用者との関わり方について、多面的かつ多角的な視点から考察し、分かりやすい発表に向けて粘り強く取り組んでいる。	・利用者との関わり方の具体例を提示し、課題に気付くよう支援する。

5 観点別評価の総括

評価は単元ごとに行う。評価結果のA, B, Cを数値に置き換えて、合計や平均値に換算することで総括していく。A=3, B=2, C=1とし、各観点の評価を数値化すると、「知識・技術」の平均点は2.5, 「思考・判断・表現」の平均値は2.0, 「主体的に学習に取り組む態度」の平均値は2.3となる。Bと判断する範囲を $[1.5 \leq \text{平均値} \leq 2.5]$ と設定すると、「知識・技術」ではA, 「思考・判断・表現」ではB, 「主体的に学習に取り組む態度」ではBの評価に総括できる。

	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	ワークシート	定期考査	ワークシート	定期考査	ワークシート	観察
1時間目	A(3)	B(2)	B(2)	B(2)	B(2)	B(2)
2・3・4 時間目	A(3)	B(2)			B(2)	A(3)
総括	A(2.5)		B(2.0)		B(2.3)	

ワークシートの具体例

<ワークシート①> 思考・判断・表現

事例

佐々木さんは5日間の予定でショートステイを利用することになり入所してきました。しかし、入所間もなく「いつになったら帰宅できるのですか。早く帰りたい。」と暗い表情で介護職員であるあなたに訴えてきました。あなたならどのような言葉を返し、どのような行動を取りますか。理由とともに説明してください。

	評価Bの例	評価Aの例	評価Cの例
解答	「5日後の予定です。何かお困りのことでもありますか。」と丁寧に対応する。	「5日後の予定です。何かお困りのことでもありますか。」と丁寧に対応する。その後、別の職員に佐々木さんが不安を抱いている可能性があることを伝え、職員間で情報共有する。	「5日後です。」
評価	帰宅時期を答えただけでなく、「早く帰りたい」という気持ちや佐々木さんの表情を読み取り、不安を解消するための言葉かけも行っているため、「おおむね満足できる」状況(B)とする。	帰宅時期を答えただけでなく、「早く帰りたい」という気持ちや佐々木さんの表情を読み取り、不安を解消するための言葉かけも行っている。また、個人の判断だけでなく別の職員にも報告し、職員全体で佐々木さんを見守る行動をとることができているため、「十分満足できる」状況(A)とする。	聞かれたことについて答えただけであるため、「努力を要する」状況(C)とする。

<ワークシート②> 主体的に学習に取り組む態度

コミュニケーション演習での学びから、利用者に関わる際に気を付けることについて、「信頼関係」という言葉を必ず用いて、自分の考えを自由に記入してください。

	評価Bの例	評価Aの例	評価Cの例
解答	<p>利用者と信頼関係を築くために、言語的コミュニケーションは重要である。また、介護職の表情や態度により利用者に与える影響もあるため、介護職は非言語的コミュニケーションも意識して、利用者に関わらなければならない。</p>	<p>利用者と信頼関係を築くためには、言語的コミュニケーションだけでなく、非言語的コミュニケーションも大切である。それは、障害等により言葉だけでは十分にコミュニケーションが図れない方いるからである。利用者の思いや感情を十分に理解するためにも非言語に注意を向ける必要がある。また、介護職員の表情や態度が利用者の心理に与える影響もあるため、介護職自身も言語的・非言語的コミュニケーションを重要視し、利用者と接する必要がある。</p>	<p>利用者と信頼関係を築くためには言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションの両方が重要である。</p>
評価	<p>言語的・非言語的コミュニケーションの重要性について利用者及び介護職の双方の立場から考え、記述しているため、「おおむね満足できる」状況(B)とする。</p>	<p>利用者の身体的特徴を十分に理解したうえで、言語的・非言語的コミュニケーションの重要性を認識し、利用者及び介護者双方からの視点で記述していたため、「十分満足できる」状況(A)とする。</p>	<p>言語的・非言語的コミュニケーションの重要性について具体的に記されていないため、「努力を要する」状況(C)とする。</p>

福祉科 「介護福祉基礎」事例2

キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで 「思考・判断・表現」の評価

単元名

福祉用具と介護ロボット

〔指導項目〕

(4) 介護における安全確保と危機管理

エ 福祉用具と介護ロボット

本単元では、日常に潜む危険について常に意識し、介護における安全確保と防災対策、感染対策、福祉用具や介護ロボットの適切な活用、介護従事者の心身の健康管理が及ぼす影響など介護における危機管理(リスクマネジメント)の必要性などについて理解できようようにすることをねらいとしている。

1 単元の目標

- (1) 福祉用具と介護ロボットについて理解するとともに、関連する技術を身に付けること。
- (2) 福祉用具と介護ロボットについて課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決すること。
- (3) 福祉用具と介護ロボットについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むこと。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
福祉用具と介護ロボットについて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	福祉用具と介護ロボットについて課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	福祉用具と介護ロボットについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画(19時間)

ア 介護における安全と事故対策	4時間	
イ 介護従事者の健康管理	2時間	
ウ 感染対策	6時間	
エ 福祉用具と介護ロボット	7時間	事例
(1) 福祉用具について	(1時間)	
(2) 介護ロボットについて	(1時間)	
(3) 福祉用具と介護ロボットの有効的な活用	(5時間)	

時間	【ねらい】・学習活動	評価		備考（評価規準・ 評価方法 ）
		観 点	記 録	
1	<p>【ねらい】 介護保険で貸与・購入できる福祉用具を理解する。</p> <p>①介護保険で利用できる福祉用具貸与と購入の種類を理解する。</p> <p>②障害者総合支援法における補装具や日常生活用具の給付について理解する。</p>	知	○	<p>①介護保険で利用できる福祉用具貸与と購入の種類を理解している。</p> <p>定期考査 ワークシート①</p>
2	<p>【ねらい】 介護ロボットについて理解する。</p> <p>①提示された介護ロボットを参考にして、介護ロボットを活用する利点と欠点を利用者と介護従事者の双方から考えた後、グループで話し合い、発表する。</p> <p>・排泄支援, 見守り, コミュニケーション支援ロボットを提示</p> <p>②介護ロボットとは、利用者の自立支援や介護従事者の負担軽減に役立つ介護機器であることを理解する。</p> <p>③ロボット技術の介護利用における重点分野が分かる。</p>	態	○	<p>①介護ロボットを活用する利点と欠点について協働的に学び合おうとしている。</p> <p>観察 発表 ワークシート② 自己評価</p>
3	<p>【ねらい】 福祉施設における介護ロボットの活用について理解を深める。</p> <p>①【ゲストスピーカー：福祉施設職員】 介護ロボットが福祉施設でどのように活用されているかを聞き、理解する。</p> <p>・移乗支援, 移動支援, 見守り支援, コミュニケーション支援ロボットの紹介 ・福祉施設に導入したことによる利点や欠点について</p> <p>②福祉施設における介護ロボットの必要性と課題について考える。</p>	思	○	<p>②福祉施設職員の話から、福祉施設における介護ロボットの必要性と課題について具体的に考えられている。</p> <p>ワークシート③</p>
4 ～ 6	<p>【ねらい】 介護ロボットの種類や特徴を知る。</p> <p>①インターネット等を活用し、介護ロボットについて調べ、特徴等についてまとめる。</p>	思	○	<p>①介護ロボットの特徴や使用方法等について分かりやすく</p>

	<p>ロボット技術の介護利用における重点分野（移乗介助、移動支援、排泄支援、見守り・コミュニケーション、入浴支援、介護業務支援）の中から、一人1分野を担当し、特徴や使用方法についてまとめる。</p> <p>②介護ロボットについて調べたことを発表する。</p> <p>③介護ロボットを活用する意義や目的を理解する。</p>	<p>態</p> <p>知</p>	<p>まとめている。 ワークシート④</p> <p>○ ②介護ロボットについて他者に分かりやすいように工夫してまとめ、発表している。 発表 ワークシート④ 自己評価</p> <p>○ ③介護ロボットを活用する意義や目的を理解している。 定期考査 ワークシート⑤</p>
7	<p>【ねらい】福祉用具と介護ロボットの安全な活用方法について考える。</p> <p>①提示された福祉用具を基に、福祉用具と介護ロボットを安全に活用する方法について考える。</p> <p>・スライディングボード ・移動用リフト</p>	思	<p>○ ①福祉用具と介護ロボットを安全に活用する方法について考えている。 ワークシート⑥</p>

4 観点別評価の進め方

本事例は、教科書を用いて基礎的な知識を理解し（知識・技術）、ゲストスピーカーの講話やインターネットを活用して課題に取り組み、（思考・判断・表現）、グループでの話し合いや発表を行う（主体的に学習に取り組む態度）という授業形態となっている。

（1）知識・技術

教師が座学による授業を行い、ワークシートに記入させる場面と定期考査において、「知識・技術」の評価を行う。ワークシートの評価は、教師が正しく記入されているかを確認することで行う。また、定期考査においては、基礎的な知識の習得が確実にに行われているかを解答の状況から確認する。

	「おおむね満足できる」状況（B） ※学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況（A）と判断した具体例	「努力を要する」状況（C）と判断した生徒への指導の手立て
ワークシート ①-①	・介護保険で利用できる福祉用具貸与と購入の種類をおおむね理解している。	・介護保険で利用できる福祉用具貸与と購入の種類を十分理解している。	・教科書の内容を確認させ、貸与と購入の種類を理解するよう支援する。
ワークシート ⑤-③	・介護ロボットを活用する意義や目的をおおむね理解している。	・介護ロボットを活用する意義や目的を十分理解している。	・ゲストスピーカーの講話や介護ロボットの発表を振り返り、理解できるよう支援する。

(2) 思考・判断・表現

福祉施設職員の講話を聞いた後に、福祉施設における介護ロボットの必要性や課題について、個人で具体的に考え、表現できているかを評価する。必要性和課題については、最低限それぞれ1つずつは考えて欲しいが、できれば多角的な視点から複数記述してもらいたいため、思考が深まらない生徒には質問を行い、具体的に考えられるよう取り組み段階での支援が必要である。

インターネットを活用し、介護ロボットの特徴等についてまとめ、レポートを作成する場面も設定した。自分だけでなく他者にとっても理解しやすいように、写真を取り入れながら分かりやすくまとめることができるかを評価する。個人で課題やレポートに取り組み、思考力や判断力、表現力が身に付いているかを評価するため、課題等に取り組んでいる過程でのきめ細やかな支援が重要となる。評価の方法としては、ワークシートやレポートの内容を評価基準と照らし合わせて行う。

	「おおむね満足できる」状況 (B) ※学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況 (A) と判断した具体例	「努力を要する」状況 (C) と判断した生徒への指導の手立て
ワークシート ③-③	・福祉施設における介護ロボットの必要性について考えている。課題についても触れている。	・福祉施設における介護ロボットの必要性について、利用者と介護従事者の双方から具体的に考え、課題についても具体的に考えている。	・介護ロボットを絞って提示し、具体的な質問をしながら、再度思考を促す。
ワークシート ④-①	・介護ロボットの特徴等について指示されたとおりにまとめている。	・介護ロボットの特徴等について詳しくかつ分かりやすくまとめている。	・他者のまとめから参考になる部分を提示し、再度まとめを促す。
ワークシート ⑥-①	・福祉用具を安全に活用する方法について考えている。	・福祉用具を安全に活用する方法について、その危険性も考慮し、具体的に考えている。	・教科書の内容を参考に、安全を妨げる要因を一つずつ確認させる。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

グループでの話し合いや発表、また、個人でレポートを作成して発表するといった学習活動を取り入れている。評価については、話し合いや課題に主体的に取り組んでいるか、また発表に意欲的に取り組み、内容が充実しているかを教師による観察やワークシート、生徒自身の自己評価によって行う。

	「おおむね満足できる」状況 (B) ※学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況 (A) と判断した具体例	「努力を要する」状況 (C) と判断した生徒への指導の手立て
ワークシート ②-①	・介護ロボットを活用する利点と欠点について、おおむね協働的に学び、分かりやすい発表に向けて粘り強く取り組もうとしている。	・介護ロボットを活用する利点と欠点について、主体的かつ協働的に学び、分かりやすい発表に向けて粘り強く取り組んでいる。	・介護ロボットを活用する利点と欠点について質問しながら、課題に気付くよう支援する。
ワークシート ④-②	・様々な介護ロボットに関心を持ち、分かりやすい発表に向けて粘り強く取り組もうとしている。	・様々な介護ロボットに関心を持ち、分かりやすい発表に向けて主体的に粘り強く取り組んでいる。	・ロボット技術の介護利用における重点分野を提示し、再度まとめを促す。

5 観点別評価の総括

評価は単元ごとに行う。評価結果のA, B, Cを数値に置き換えて、合計や平均値に換算することで総括していく。A=3, B=2, C=1とし、各観点の評価を数値化すると、「知識・技術」の平均点は3.0, 「思考・判断・表現」の平均値は2.3, 「主体的に学習に取り組む態度」の平均値は2.6となる。Bと判断する範囲を「1.5 ≤ 平均値 ≤ 2.5」と設定すると、「知識・技術」ではA, 「思考・判断・表現」ではB, 「主体的に学習に取り組む態度」ではAの評価に総括できる。

	知識・技術		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	ワークシート	定期考査	ワークシート	観察	発表	ワークシート
1時間目	A (3)	A (3)				
2時間目			B (2)	A (3)	B (2)	B (2)
3時間目			B (2)			
4～6時間目		A (3)	A (3)		A (3)	A (3)
7時間目			B (2)			
総括	A (3.0)		B (2.3)	A (2.6)		

ワークシートの具体例

<ワークシート③> 思考・判断・表現

福祉施設職員の講話を聞き、福祉施設における介護ロボットの必要性と課題について、自分の考えを自由に記入してください。

	評価Bの例	評価Aの例	評価Cの例
解答	介護ロボットを福祉施設に導入することで、介護者の負担軽減につながる。課題は、導入コストが高いということである。今後ますます介護ロボットが普及していけばよいと思う。	介護ロボットを福祉施設に導入することで、介護者の身体的・精神的負担を軽減する働きがある。また、介護業務の効率化を図ることができる。利用者にとっては、介護を受ける際に感じるストレスを軽減する利点もある。課題は、導入コストが高いこと、操作が難しいこと、介護ロボットを置くスペースの確保が難しいことが挙げられる。	介護ロボットを導入することは、利用者にとっても福祉施設にとっても重要なことである。
評価	介護ロボットの必要性と課題について考え、記述しているため、「おおむね満足できる」状況 (B) とする。	介護ロボットの必要性と課題について多角的な面から考察し記述しているため、「十分満足できる」状況 (A) とする。	介護ロボットの必要性や課題について具体的な記載がないため、「努力を要する」状況 (C) とする。

<ワークシート④> **思考・判断・表現**

<p>1 ロボット技術の介護利用における重点分野 <</p> <p>2 名称</p> <p>3 対象者</p> <p>4 特徴</p> <p>5 使用方法</p> <p>6 感想</p>	<p>></p> <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 80px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <p>写真</p> </div>
--	--

	評価Bの例	評価Aの例	評価Cの例
評価	介護ロボットの特徴や使用方法等，指示された項目についてまとめている場合，「おおむね満足できる」状況（B）とする。	介護ロボットに関して，指示された内容の他にも利点や機能等についても詳しく記述するとともに，写真を取り入れて分かりやすくまとめている場合，「十分満足できる」状況（A）とする。	介護ロボットの特徴や使用方法等，指示された内容に関する記述が文字のみで記述されるとともに，内容が極端に少ない場合，「努力を要する」状況（C）とする。

福祉科 「生活支援技術」事例3

キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで、「主体的に学習に取り組む態度」の評価

単元名

歩行介助

【指導項目】

(2) 自立に向けた生活支援

エ 移動の支援

本単元では、サービス利用者の状態や状況に応じた、安全・安楽な移動の支援について理解するために、移動の意義や目的、自立した日常生活を送るために必要な移動・移乗の支援方法と留意点などについて実習を含めて扱う。また、サービス利用者の状態や状況に応じた安楽な体位の保持や体位変換、歩行、車いすなど福祉用具、介護ロボットの活用方法などについて扱う。さらに、機能低下や障害が移動に及ぼす影響についても扱う。

1 単元の目標

- (1) 自立に向けた生活支援や安全で安楽な移動の支援などについて理解するとともに、関連する技術を身に付けること。
- (2) サービス利用者の自立生活に必要な移動支援の在り方や具体的方法についての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決すること。
- (3) サービス利用者の尊厳を保持した自立生活について、主体的かつ協働的に解決に取り組むこと。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自立に向けた生活支援や安全で安楽な移動の支援などについて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	サービス利用者の自立生活に必要な移動支援の在り方や具体的方法についての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	サービス利用者の尊厳を保持した自立生活について、主体的かつ協働的に解決に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（13時間）

移動の支援

- 【1】 移動の意義と目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- 【2】 移動における介護技術・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12時間
- 【2】 - 1 移動・移乗の介護の基本的理解・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (1時間)
- 【2】 - 2 体位変換・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (3時間)
- 【2】 - 3 車いす介助・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (3時間)
- 【2】 - 4 歩行介助・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (4時間)
- 【2】 - 5 移動に用いられる福祉用具・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (1時間)

事例

時間	【ねらい】・学習活動	評価		備考（評価規準・ 評価方法 ）
		観 点	記 録	
1	<p>(1) 歩行機能の低下とその問題 (2) 歩行介助の種類 (3) 杖の種類・杖の調節方法</p> <p>【ねらい】 利用者の状態に合った歩行介助や杖があることを理解し、杖の調節方法を身に付ける。</p>			
	<p>◆歩行機能が低下する要因やそれによって起こる問題等について理解する。</p> <p>◆高齢者の歩行の特徴や歩行介助を行うにあたっての注意点を理解する。</p> <p>◆歩行介助の種類(杖歩行・手引き歩行・歩行器)を理解する。</p> <p>◆利用者の状態に合った歩行や杖があることを理解し、杖の調節方法の技術を身に付ける。</p>	知	○	<p>・教科書の内容を理解し、ワークシートに正確に記述している。</p> <p>ワークシート① 定期考査</p>
2	<p>(4) 歩行介助</p> <p>【ねらい】 杖を使用した3点動作歩行・階段の歩行の介助をすることができる。</p>			
	<p>◆3点動作歩行介助の、教員によるデモンストレーションを見て手順を確認する。</p> <p>【確認ポイント】 準備する杖、杖の取り扱い方、利用者の状態(自立度、健側)、手順、</p> <p>◆3点動作歩行介助の手順、ワークシート②のチェック欄の介助ポイントを確認しながら、実技を行う。(各グループ2回転実施)</p> <p>*最終回転は、動画を撮影する。</p> <p>*3人1組で実技を行い、介護者、要介護者(利用者)、観察者を交互に体験する。観察者は、適切な手順で介助が実施されているかワークシート②のチェック欄を用いて記録をとる。</p>	知 思 知	○ ○	<p>・杖の取り扱い方、3点動作歩行介助の手順を確認している。</p> <p>ワークシート②のチェック欄 定期考査</p> <p>・介助する際、利用者のどこに立つか考えることができる。観察</p> <p>・①杖②麻痺側の足③健側の足を出すの順に1歩ずつ前に足を出すよう促し、利用者のできるところは見守り、うまくできないところをワークシート②のチェック欄のポイントを確認しながら介助することができる。</p> <p>ワークシート②チェック欄 教師用観察シート①</p>

3	<p>◆杖を使用した階段の歩行介助の教員によるデモンストレーションを見て手順を確認する。</p> <p>◆杖を使用した階段の歩行介助を手順、ワークシート②のチェック欄の介助ポイントを確認しながら、実技を行う。(各グループ2回転実施)</p> <p>* 最終回転は、動画を撮影する。</p> <p>* 3人1組で実技を行い、介護者、要介護者(利用者)、観察者を交互に体験する。観察者は、適切な手順で介助が実施されているかワークシート②のチェック欄を用いて記録をとる。</p>	知	○	<p>・階段の上り下りの際、足を適切な順番(上りの場合:①杖②健側の足③患側の足, 下りの場合:①杖②患側の足③健側の足)で出せるよう声がけし、利用者のできるところは見守り、うまくできないところをワークシート②のチェック欄のポイントを確認しながら介助することができる。</p> <p>ワークシート②チェック欄 自己評価 他己評価 教師用観察シート②</p>
		思	○	<p>・適切な声がけをし、安全な介助ができる。</p> <p>教師用観察シート② 観察 定期考査</p>
		態	○	<p>・主体的に実習に取り組み、良かった点や改善点などをワークシート②に記入する。</p> <p>ワークシート② 自己評価 他己評価 観察</p>
4	<p>(5) まとめ</p> <p>【ねらい】声がけの方法の工夫や、危険を予測し、利用者の安全・安楽を常に考えた介護を見つけ出すことができる。</p> <p>◆撮影した動画を見ながら、安全で残存機能を活用した歩行介助を実施するために、意見を交換し、実習を振り返る。</p> <p>*各グループの動画をワークシート②のチェック欄のチェックポイントと適切な声がけ、立ち位置、腋窩の支え方、要介護者のペースに合わせて介護しているか確認しながら見る。</p>	態	○	<p>・動画を見て実習を振り返り、各役における自分の役割を認識した上で、グループ内で相互に意見を出し合い、良かった点や気づきをワークシートに記入する。</p> <p>ワークシート② 観察</p>
		思	○	<p>・動画を見て各役割の改善点に気付くことができる。</p> <p>・実習を通して、安全・安楽な介助について、また残存機能活用の重要性について考えることができる。</p> <p>ワークシート② 観察</p>

4 観点別評価の進め方

(1) 知識・技術

小単元(1), (2)は座学での授業を実施し, ワークシート①において, () に記入させることで, 歩行介助の種類, 杖の種類, 杖の調節方法の理解につなげる。教師はワークシートの該当箇所を評価していく。

小単元(3)の実習においては, ワークシート②の手順チェック欄を用いて歩行介助の評価を行う。適切な安全安楽の介助技術は, あらかじめ「留意点として明示した項目について, グループ担当教師が教員用観察シートを用いて評価していく。単元全体を通して習得した知識・技術は, 定期考査を活用し評価していく。

	「おおむね満足できる」状況(B) *学習活動に即した評価基準	「十分満足できる」状況(A)と判断した具体例	「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への指導の手立て
ワークシート①	・歩行介助・杖の種類をおおむね記入することができる。	・歩行介助・杖の種類を記入することができる。	・教科書の内容を確認させ, 記入を促す。
ワークシート②	・各手順表の()におおむね記入することができる。	・各手順表の()に適切に記入することができる。	・板書の内容を確認させ, ワークシートへの記入を促す。
ワークシート②チェック欄	・ワークシートの自己評価・他己評価の該当項目5割以上に○がついている。	・ワークシートの自己評価・他己評価の該当項目にすべて○がついている。	・ワークシートの, できなかった該当項目を振り返り, 改善するところを伝える
教員用観察シート①・②	・教員用観察シートの該当項目の5割以上に○がついている。	・教員用観察シートの該当項目すべてに○がついている。	・ワークシートの介助手順を確認させ, 手順通りに行うだけでなく利用者の状況に合わせた声かけや観察が必要なことに気付かせ, 改善するところを伝える。

(教員用観察シート) ①3点動作歩行介助		
項目	生徒A	生徒B
①利用者の身長に合った長さの杖が選択されているか		
②杖を杖側の足の小指の前・外15cm程度のところについてるか	○	○
③杖の長さを肘を軽く曲げて(150度), 自然に持てる程度にしているか		
④麻痺のある人の麻痺側に立ったか	○	○
⑤必要に応じて腰を支えたか	○	
⑥腕をつかんで支えることはしなかったか	○	
⑦力加減・苦痛の有無を確認しているか	○	

(教員用観察シート) ②杖を使用した階段の歩行介助

項目	生徒A	生徒B
①杖をつく位置が安定しているか確かめたか	○	
②利用者の患側の腕を支え、一方の手は腰に添えて身体を支えているか	○	○
③階段の上り下りの際、足を適切な順番（上りの場合：①杖②健側の足③患側の足、下りの場合：①杖②患側の足③健側の足）で出せるよう適切な声がけしているか		
④杖と健側の足で身体を支えるよう促したか	○	○
⑤必要に応じて腰や腋窩を支えたか	○	
⑥患側の足をゆっくり下ろすのを介助したか	○	
⑦あせらず安全に介助を行ったか	○	○

(2) 思考・判断・表現

小単元(3)の実習においては、ワークシート②杖を使用した階段の歩行介助のチェック項目を用いて、適切な介助を考えながら行う。教師は生徒の介助方法を観察し評価していく。

	「おおむね満足できる」状況 (B) * 学習活動に即した評価基準	「十分満足できる」状況 (A) と判断した具体例	「努力を要する」状況 (C) と判断した生徒への指導の手立て
観察	・階段の上り下りの際、足を適切な順番(上りの場合：①杖②健側の足③患側の足・下りの場合：①杖②患側の足③健側の足)で出せるよう適切な声がけをし、安全な介助がおおむねできる。	・階段の上り下りの際、足を適切な順番(上りの場合：①杖②健側の足③患側の足・下りの場合：①杖②患側の足③健側の足)で出せるよう適切な声がけをし、安全な介助ができる。	ワークシート②のチェック欄を用いて振り返り、適切な介助ができるよう支援する。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

小単元(4)では、グループでの話し合いに主体的かつ協働的に取り組んでいるかを教師による観察、ワークシートの取り組み状況で評価する。

	「おおむね満足できる」状況 (B) * 学習活動に即した評価基準	「十分満足できる」状況 (A) と判断した具体例	「努力を要する」状況 (C) と判断した生徒への指導の手立て
ワークシート②	・動画で振り返り(ワークシートのチェック項目と適切な声がけ、立ち位置、腋窩の支え方、要介護者のペースに合わせて介護しているか)、グループ内で意見を出し、良かった点や気付きをおおむねワークシートに記入できている。	・動画で振り返り(ワークシートのチェック項目と適切な声がけ、立ち位置、腋窩の支え方、要介護者のペースに合わせて介護しているか)、グループ内で意見を出し、良かった点や気付きをワークシートに記入できている。	・実習内容の流れから再度利用者の思いを振り返らせ発言と記入の支援を行う。

5 観点別評価の総括

評価は、小單元ごとに実施する。評価結果をA=3, B=2, C=1の数値に置き換えて、合計や平均値に換算することで総括していく。各観点の評価を数値化して合計し平均値を換算した場合、「知識・技能」の平均値は2.4, 「思考・判断・表現」の平均値は2.0, 「主体的に学習に取り組む態度」の平均値は2.0となる。

Bと判断する範囲を $[1.5 \leq \text{平均値} \leq 2.5]$ と設定すると、「知識・技能」ではB, 「思考・判断・表現」ではB, 「主体的に学習に取り組む態度」ではBの評価に統括できる。

	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
	ワークシート	観察シート	定期考査	ワークシート	観察	定期考査	ワークシート	観察
1	A (3)		B (2)					
2・3	A (3)	B (2)	B (2)	B (2)	B (2)	B (2)	B (2)	B (2)
4				B (2)	B (2)		B (2)	B (2)
総括	B (2.4)			B (2.0)			B (2)	

ワークシートの具体例

ワークシート② 3点動作歩行介助〈右麻痺の場合〉

* () に適切な語句を記入しなさい。

チェック基準【○:手順を見ないで一人でできる △:手順を見たり,アドバイスをもってできる ×:できない】

チェックの項目	自己評価	他己評価 〈観察者: >
①3点動作歩行で歩くことを説明し, (同意)を得る。		
②杖の(長さ)が適当か確認する。		
③杖の先がすり減っていないかチェックする。		
④動きやすい服装, (滑り)にくい靴を着用しているか確認する。		
⑤麻痺側(後方)に立つ。		
⑥必要に応じ, (腰)などを支えている。		
⑦利用者の(健側)の手に杖を持たせている。		
⑧1:杖, 2:(麻痺側)の足, 3:(健側)の足を出す, の順に1歩ずつ前に足を出すよう促す。		
⑨利用者をあせらないよう介助する。		
⑩体調・気分を確認している。		

ワークシート②

杖を使用した階段の歩行介助

* () に適切な語句を記入しなさい。

チェック基準【○:手順を見ないで一人でできる △:手順を見たり,アドバイスをもってできる ×:できない】

チェックの項目	自己評価	他己評価 〈観察者: >
①杖を使い階段を上り下りすることを説明し, (同意) を得る。		
② (健側) の手で杖を持つよう促す。		
③杖のつく位置が (安定) しているか確かめる。		
④階段の上り下りの際, 足を適切な順番 (上りの場合: ①杖② (健側) の足③患側の足, 下りの場合: ①杖② (患側) の足③健側の足) で出すよう促す。		
⑤上りの際, (患足) 側に立ち, 腕を支え, 一方の手は腰に添えて身体を支える。		
⑥下りの際, 利用者の患足側 (前方) に立っている。		
⑦杖と (健側) の足で体を支えるよう促す。		
⑧患足側の足をゆっくり下ろすのを介助する。		
⑨健側の足を下ろすのを介助する。		
⑩ (体調) ・気分を確認している。		

まとめ①【良かった点と改善が必要な点を記入してください。】

まとめ②【自己評価】

	A	B	C	自己評価
知識・技術	杖を使用した歩行介助について十分理解することができた。	杖を使用した歩行介助について大体理解することができた。	杖を使用した歩行介助についてあまり理解することができなかった。	
思考・判断・表現	実習を振り返り良かった点・改善点を深く考え, 具体的な意見を出し, 分かりやすくワークシート②に記入することができた。	実習を振り返り良かった点・改善点を考え, ワークシート②に記入することができた。	実習を振り返り良かった点・改善点を考えることができず, ワークシート②に記入することができなかった。	
主体的に学習に取り組む態度	実習の振り返りの話し合い (グループ活動) に積極的かつ協働的に取り組み, 他者の意見や改善点を取り入れ今後の実習に生かそうとするなど粘り強く取り組むことができた。	実習の振り返りの話し合い (グループ活動) におおむね協働的に取り組み, 他者の意見や改善点を取り入れ今後の実習に生かそうと取り組もうとした。	実習の振り返りの話し合い (グループ活動) に協働的に取り組むことができず, 他者の意見や改善点を今後の実習に生かそうとすることができなかった。	

福祉科 「生活支援技術」事例4

キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで、「主体的に学習に取り組む態度」の評価

単元名

衣類の着脱

【指導項目】

(2) 自立に向けた生活支援

ウ 身じたくの支援

本単元では、サービス利用者の状態や状況に応じた、安全・安楽な身じたくの支援について理解するために、衣服の着脱の意義や目的、身じたくへの意欲や装いの楽しみ、整容の支援方法と留意点などについて実習を含めて扱う。また、社会参加と身じたくの関連性、時や場所及び場合に合わせた服装の選択や組み合わせ、流行への配慮など、その人らしさの表現としての身だしなみ、口腔ケアなどについて扱う。さらに、機能低下や障害が身じたくに及ぼす影響についても扱う。

1 単元の目標

- (1) 自立に向けた生活支援や安全で安楽な着脱の支援などについて理解するとともに関連する技術を身に付けること。
- (2) サービス利用者の自立生活に向けた着脱支援の在り方や具体的方法についての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決すること。
- (3) サービス利用者の尊厳を保持した自立生活について自ら学び、主体的かつ協働的に解決に取り組むこと。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自立に向けた生活支援や安全で安楽な着脱の支援などについて理解するとともに関連する技術を身に付けている。	サービス利用者の自立生活に向けた着脱支援の在り方や具体的方法についての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	サービス利用者の尊厳を保持した自立生活について自ら学び、主体的かつ協働的に解決に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（16時間）

身じたくの支援

- 【1】身じたくの意義と目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間
- 【2】身じたくにおける介護技術・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14時間
- 【2】- 1 整容における介護（洗面・整髪・耳垢の除去・ひげそり・化粧・爪切り）（6時間）
- 【2】- 2 口腔における介護・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（4時間）
- 【2】- 3 衣類の着脱介助・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（4時間）

事例

時間	【ねらい】・学習活動	評価		備考（評価規準・ 評価方法 ）
		観 点	記 録	
1	<p>(1) 衣類着用の目的 (2) 衣類選択時の視点</p> <p>【ねらい】衣類を着用する目的について理解し、利用者の自己決定を大切に衣類の選択に必要な視点を身に付ける。</p>			
	<p>◆衣類着用の目的を理解する。</p>	知	○	<p>・教科書の内容を理解し、衣類着用の目的について正確にワークシートに記述している。</p> <p>ワークシート① 定期考査</p>
	<p>◆利用者の好みや自己決定を大切にし、さらに麻痺や拘縮などの身体的側面を考慮し、利用者が着脱しやすい衣類を選ぶことができる。</p>	思	○	<p>・衣類の種類によって気を付けた視点を考えることができる。</p> <p>ワークシート① 定期考査</p>
2	<p>(3) 衣類着脱の介護</p> <p>【ねらい】利用者ができる部分を見極めて、できない部分を援助することができる。</p>			
	<p>◆「脱健着患」を基本とした、「端座位・右片麻痺の利用者」の前開きの上着の着脱介助とズボンのはき替え介助の、教員によるデモンストレーションを見て手順を確認する。</p> <p>【確認ポイント】</p> <p>準備する必要物品、物品の取り扱い方、利用者の状態（体位、自立度、健側）、手順、</p>	知	○	<p>・物品の取り扱い方、着脱介助の手順を理解している。</p>
	<p>◆「端座位・右片麻痺の利用者」の前開き上着の着脱介助・ズボンのはき替え介助を手順、ワークシート②のチェック欄の介助ポイントを確認しながら、実技を行う。（各グループ2回転実施）</p> <p>* 3人1組で実技を行い、介護者、要介護者(利用者)、観察者を交互に体験する。観察者は、ワークシート②のチェック欄を用いて適切な手順で介助が実施されているか記録をとる。</p>	知	○	<p>・片麻痺がある場合は脱健着患を理解し、健側から脱ぎ患側から上着を着せることができる。</p> <p>ワークシート②チェック欄 定期考査</p>
		思	○	<p>・利用者のできるところは見守り、うまくできないところをワークシート②のチェック欄の項目を確認しながら介助することができる。</p> <p>ワークシート②チェック欄 教員用観察シート</p> <p>・利用者と常にコミュニケーションをとりながら、安全・安楽な介助ができる。</p> <p>教員用観察シート 観察 ワークシート②チェック欄</p>

3	<p>◆「脱健着患」を基本とした、「仰臥位・右片麻痺の利用者」のベッド上での前開き上着の着脱介助について、教員によるデモンストレーションを見て手順を確認する。</p> <p>◆「仰臥位・右片麻痺の利用者」のベッド上での前開き上着の交換を手順、ワークシート②のチェック欄の項目を確認しながら、実技を行う。(各グループ2回転実施)</p> <p>*最終回転は、動画を撮影する。</p>	態	○	<p>主体的に実習に取り組み、良かった点や改善点などをワークシート②に記入する。</p> <p>ワークシート②チェック欄 観察</p>
4	<p>(4)まとめ 【ねらい】グループでの着脱介助実習後、必要とされている介助が行われていたか振り返り、適切な介助方法を見つけ出していく。</p> <p>◆撮影した動画を見ながら、安全かつ残存機能を活用した着脱の実施するために、意見を交換し、実習を振り返る。</p> <p>*各グループの動画をワークシート②のチェック欄のチェック項目と室温や肌の不要な露出を避けているか、要介護者のペースに合わせて介護しているかなどを確認しながら見る。</p>	態 思	○ ○	<p>・動画を見て実習を振り返り、各役における自分の役割を認識した上で、グループ内で相互に意見を出し合い、良かった点や気づきをワークシートに記入する。</p> <p>ワークシート② 観察</p> <p>・動画を見て各役割の改善点に気付くことができる。 ・実習を通して、安全・安楽な介助について、また残存機能の活用の重要性について考えることができる。</p> <p>ワークシート② 観察</p>

4 観点別評価の進め方

(1) 知識・技術の評価

小単元(1), (2)は座学での授業を実施し, ワークシート①において, 衣類着用の目的, 介助の手順を表の()に記入させることで, 理解につなげる。教師はワークシートの該当箇所を評価していく。

小単元(3)の実習においては, ワークシート②のチェック項目を用いて着脱の介助技術の評価を行う。適切な安全安楽の介助技術は, あらかじめ留意点を明示した項目について, グループ担当教師が教員用観察シートを用いて評価していく。単元全体を通して習得した知識・技術は, (定期考査)を活用し評価していく。

	「おおむね満足できる」状況(B) *学習活動に即した評価基準	「十分満足できる」状況(A)と判断した具体例	「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への指導の手立て
ワークシート①	・衣類着用の目的をおおむね記入することができる。	・衣類着用の目的を記入することができる。	・教科書の内容を確認させ, 記入を促す。
ワークシート②	・あてはまる語句を着脱介助の手順表の()に記入することができる。	・あてはまる語句を着脱介助の手順表の()に適切に記入することができる。	・板書の内容を確認させ, ワークシートの記入を促す。
ワークシート②チェック欄	・チェック欄の自己評価・他己評価の該当項目5割以上に○がついている。	・チェック欄の自己評価・他己評価の該当項目にすべて○がついている。	・チェック欄の, できなかつた該当項目を振り返り, 改善するところを伝える
教員用観察シート	・教員用観察シートの該当項目の5割以上に○がついている。	・教員用観察シートの該当項目すべてに○がついている。	・ワークシートの介助手順を確認させ, 手順通りに行うだけでなく, 利用者の状況に合わせた声かけや観察が必要なことを気付かせ, 改善するところを伝える。

(教員用観察シート)		
項目	生徒A	生徒B
①着替えることを説明し, 同意を得たか	○	○
②姿勢が安定していることを確認しているか	○	
③脱健着患を意識し介助をしているか	○	○
④できない部分を介助したか		
⑤利用者とコミュニケーションをとり, 観察しながら介助しているか	○	
⑥力加減・苦痛の有無を確認しているか	○	○
⑦不要な肌の露出は避けているか		
⑧衣服のしわを確認し着替えた後, 着心地を確認しているか	○	

(2) 思考・判断・表現

小単元(1)は、座学での授業を実施し、ワークシート①において、利用者の状態に合わせて衣類を選ぶ際の留意点を考えさせ()に記入させる。教師はワークシートの該当箇所を評価していく。

小単元(3)の実習においては、ワークシート②着脱介助のチェック項目を用いて適切な介助を考えながら行う。教師は生徒の介助方法を観察し評価していく。

	「おおむね満足できる」状況(B) *学習活動に即した評価基準	「十分満足できる」状況(A)と判断した具体例	「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への指導の手立て
ワークシート①	・利用者の状態にあった衣類を選ぶ際、気を付けたい視点をおおむね考え記入することができる。	・利用者の状態にあった衣類を選ぶ際、気を付けたい視点を具体的に考え記入することができる。	・教科書の内容を確認させ、記入を支援する。
観察	・利用者とコミュニケーションをとり、力加減、苦痛の有無など確認を行いながらおおむね安全・安楽に配慮した介助ができています。	・利用者とコミュニケーションをとり、力加減、苦痛の有無など確認を行いながら安全・安楽に配慮した介助ができています。	・安全・安楽に介助するためのポイントをワークシートを用いて振り返り、適切な介助ができるよう支援する。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

小単元(4)では、グループでの話し合いに主体的かつ協働的に取り組んでいるかを教師による観察、ワークシートの取り組み状況で評価する。

	「おおむね満足できる」状況(B) *学習活動に即した評価基準	「十分満足できる」状況(A)と判断した具体例	「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への指導の手立て
ワークシート③	・動画で振り返り(ワークシートのチェック項目と室温や肌の不要な露出を避けているか、要介護者のペースに合わせて介護しているかなど)、グループ内で意見を出し、良かった点や気づきをおおむねワークシートに記入できている。	・動画(ワークシートのチェックポイントと室温や肌の不要な露出を避けているか、要介護者のペースに合わせて介護しているかなど)で振り返り、グループ内で意見を出し、良かった点や気づきを適切にワークシートに記入できている。	・実習内容の流れから再度利用者の思いを振り返らせ発言と記入の支援を行う。

5 観点別評価の総括

評価は、小单元ごとに実施する。評価結果をA=3、B=2、C=1の数値に置き換えて、合計や平均値に換算することで総括していく。各観点の評価を数値化して合計し平均値を換算した場合、「知識・技能」の平均値は2.2、「思考・判断・表現」の平均値は2.0、「主体的に学習に取り組む態度」の平均値は2.0となる。

Bと判断する範囲を $[1.5 \leq \text{平均値} \leq 2.5]$ と設定すると、「知識・技術」ではB、「思考・判断・表現」ではB、「主体的に学習に取り組む態度」ではBの評価に統括できる。

	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
	ワークシート	観察シート	定期考査	ワークシート	観察	定期考査	ワークシート	観察
1	A (3)		B (2)	B (2)				
2・3	B (2)	B (2)	B (2)	B (2)	B (2)	B (2)	B (2)	B (2)
4				B (2)	B (2)		B (2)	B (2)
総括	B (2.2)			B (2.0)			B (2.0)	

ワークシートの具体例

着脱介助〈前開き上衣の着替え〉

* () に適切な語句を記入しなさい。

チェック基準 [○:手順を見ないで一人でできる △:手順を見たり,アドバイスをもってできる×:できない]

チェックの項目	自己評価	他己評価 〈観察者: 〉
①上衣を着替えることを説明し, (同意)を得る。		
②姿勢が安定していることを確認する。		
③ボタンを(健側)の手ではずすよう促す。		
④先に麻痺側の肩を少し脱がしてから, (健側)の肩を脱ぎ, (袖)を完全に脱ぐ。		
⑤次いで健側の腕を使い, 麻痺側を脱ぐよう促す。(できない)部分を介助する。		
⑥(患側)から袖を通すよう促す。		
⑦次いで(健側)に袖を通すよう促す。		
⑧ボタンを(健側)の手でかけるよう促す。		
⑨(羞恥心)に配慮して, 見守りながらできない部分を介助する。		
⑩(着心地)を確認する。		
⑪(体調確認)をしたか。		
⑫全体を通して, 丁寧な声掛けと介助ができたか。		

まとめ①【良かった点と改善が必要な点を記入してください。】

まとめ②【自己評価】

	A	B	C	自己評価
知識・技術	着脱介助について十分理解することができた。	着脱介助について大体理解することができた。	着脱介助についてあまり理解することができなかった。	
思考・判断・表現	実習を振り返り, 良かった点・改善点を深く考え, 具体的な意見を出し, 分かりやすくワークシート②に記入することができた。	実習を振り返り, 良かった点・改善点を考え, ワークシート②に記入することができた。	実習を振り返り良かった点・改善点を考えることができず, ワークシート②に記入することができなかった。	
主体的に学習に取り組む態度	実習の振り返りの話し合い(グループ活動)に積極的かつ協働的に取り組み, 他者の意見や改善点を取り入れ今後の実習に生かそうとするなど粘り強く取り組むことができた。	実習の振り返りの話し合い(グループ活動)におおむね協働的に取り組み, 他者の意見や改善点を取り入れ今後の実習に生かそうとし, 取り組もうとした。	実習の振り返りの話し合い(グループ活動)に協働的に取り組むことができず, 他者の意見や改善点を今後の実習に生かそうとすることができなかった。	

福祉科 「こころとからだの理解」事例5
 キーワード 「思考・判断・表現」評価の一考察

単元名
 高齢者と健康

指導項目
 (3) 発達と老化の理解
 ウ 高齢者と健康

本単元では、高齢者と健康について、高齢者に多い疾病や症状、身体の不調の訴えなどを取り上げ、日常生活上の留意点、健康の維持・増進などについて扱う。また、基礎的な医薬品とその扱いの知識、保健医療職や他の職種との連携や協働、ヘルスプロモーション、健康と環境や食品などとの関係についても扱う。

1 単元の目標

- (1) 人間の成長と発達における心理面や身体機能の変化と日常生活への影響など、発達と老化について理解するとともに、関連する技術を身に付けること。
- (2) 発達と老化についての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決すること。
- (3) 人間の成長と発達の過程に応じた生活などについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むこと。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人間の成長と発達における心理面や身体機能の変化と日常生活への影響など、発達と老化について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	発達と老化についての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	人間の成長と発達の過程に応じた生活などについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画（35時間）

発達と老化の理解

ア 人間の成長と発達・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5時間

イ 老年期の理解と日常生活・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10時間

ウ 高齢者と健康・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20時間

事例

(1) 健康長寿に向けての健康・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (2時間)

(2) 高齢者の症状・疾患の特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (2時間)

(3) 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点・・・・・・・・・・・・ (14時間)

(4) 保健医療職との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (2時間)

時間	【ねらい】・学習活動	評価		備考（評価規準・ 評価方法 ）
		観 点	記 録	
<p>(1) 健康寿命に向けての健康 【ねらい】 平均寿命と健康寿命の推移から背景となっていることは何か、人間は健康に生きるという実感をどのようなことで得られるのか考えることができる。</p>				
1 ・ 2	<p>①平均寿命と健康寿命の推移をグラフより読み取り、背景となっていることは何か考察する。</p> <p>②疾病構造の変化について背景を考察する。</p> <p>③国民健康づくり対策について復習する。</p> <p>④サクセスフルエイジング、プロダクティブエイジング、アクティブエイジングの考え方より、人生は長さだけではなく質も重要であることに気付く。</p>	知 思 態 知	○ ○ ○	<p>・平均寿命、健康寿命について正しく理解している。 ワークシート① 小テスト</p> <p>・グラフを読み取り、平均寿命と健康寿命の推移および死亡率の変化が正確に記述されている。 ・疾病構造の変化の背景について考察している。 ワークシート① 観察 自己評価</p> <p>・調べ学習に主体的に取り組んでいる。 観察 自己評価</p> <p>・用語を理解し、人生の質について考えることができている。 ワークシート② 小テスト</p>
<p>(2) 高齢者の症状・疾患の特徴 【ねらい】 高齢者の症状・疾患の特徴について理解する。</p>				
3 ・ 4	<p>①高齢者の症状・疾患の特徴について理解する。</p> <p>②閉じこもり、廃用症候群、老年症候群など起こり得る高齢者に特有な症候について理解する。</p>	知	○	<p>・講義内容のポイントがワークシート③に正確に記載されている。 ワークシート③ 小テスト</p>
<p>(3) 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 【ねらい】 主体的な活動を通して、既存の知識と結びつけながら高齢者に多い疾患を理解し、生活上の留意点を考えまとめることができる。</p>				

5 く 18	<p>ワークシート④を活用し、以下の課題に取り組む。</p> <p>①骨格系・筋系 ②脳・神経系 ③皮膚・感覚系 ④循環器系 ⑤呼吸器系 ⑥消化器系 ⑦腎・泌尿器系 ⑧内分泌・代謝系 ⑨歯・口腔系 ⑩感染症 ⑪精神疾患</p> <p>3名程度のグループを作り、上記の中から担当する系を決める。</p> <p>課題1 「こころとからだの理解」で学んだ系に所属する器官の構造と役割をそれぞれまとめ、その後、グループ内で発表し、知識を確認し合う。</p> <p>課題2 系ごとの代表的な疾患についてそれぞれが調べ、どの部位がどのように変化することで生じる疾患か理解する。</p> <p>課題3 調べた疾患についてグループ内で共有し、具体的な援助方法を一緒に考える。</p> <p>課題4 自分たちが調べた内容をクラス内で発表し、質問に答える。</p>	知 思 態	<p>○ ・各器官の構造と役割が記入できている。 ワークシート④</p> <p>○ ・代表的な疾患をそれぞれ調べ、系毎の共通する援助について考えることができる。 ・クラスで発表し、質問に答えることができる。 ワークシート④ 発表 観察 他己評価 自己評価 小テスト</p> <p>○ ・調べ学習、発表に積極的に取り組むことができる。グループでの情報共有により、学習を深めることができる。 ワークシート④ グループでの話し合い 観察</p>
<p>(4) 保健医療職との連携 【ねらい】 演習を通して保健医療職との連携の重要性に気づくことができる。</p>			
19 ・ 20	<p>いつ誰とどのように連携するのか理解し、連携の重要性に気付く。</p>	思	<p>○ ・事例を活用し、多職種での関わりについて考えることができる。 ワークシート⑤ 発表 自己評価 定期考査</p>

4 観点別評価の進め方

科目「こころとからだの理解」は人間の理解に必要な心身の構造や機能、生活支援に必要なこころとからだの関係、認知症と障害などについて、福祉を実践する際の根拠を理解するとともに関連する技術を身に付け、生活支援を行うために必要な資質・能力を育成することをねらいとしている。知識として覚える内容も多く、評価は「知識・技術」に偏ってしまう恐れもある。そこで、本事例は、先に学んだ心身の構造や機能をもとに疾患について自分で調べまとめ、系統ごとに根拠に基づいた支援内容を考えられるようにした。ワークシートを用いて、段階的に「思考・判断・表現」を評価できるよう、また、グループ内での発表と話し合い、クラス内での発表・評価を加えることで「主体的に学習に取り組む態度」を高めることを目指している。

(1) 知識・技術

小単元(1)、(2)は教師が座学による授業を行い、ワークシートに重要な用語を記入させることで、教科書に書かれてある内容の理解を促す。小単元(3)は既習した内容についてワークシートにまとめる課題である。評価はワークシートに正しく書かれているかを教師が点検することで行う。また、用語の定着を図るため、小テストや定期考査を実施し、「知識・技術」の評価として反映する。

	「おおむね満足できる」状況(B) *学習活動に即した評価基準	「十分満足できる」状況(A)と判断 した具体例	「努力を要する」状況(C)と判断 した生徒への指導の手立て
ワークシート①	・平均寿命、健康寿命という語句を記入することができる。 (小テストで一部誤りがある。)	・平均寿命、健康寿命という語句を記入し、説明文と一致させることができる。(小テストで正確に用語を書くことができる。)	・どこに記入するのか分からない場合は伝え記入を促す。 ・漢字の間違いが見られる場合は、訂正を促す。
ワークシート②	・国民健康づくり対策の基本方針を教科書を見て記入することができる。 ・サクセスフルエイジング、プロダクティブエイジング、アクティブエイジングという語句を記入することができる。 (小テストで一部誤りがある。)	・国民健康づくり対策の基本方針を教科書を見て正確に記入することができる。 ・サクセスフルエイジング、プロダクティブエイジング、アクティブエイジングという語句を記入することができる。 (小テストで正確に用語を書くことができる。)	・教科書のどこに書いてあるのか分からない場合は伝え記入を促す。 ・漢字の間違いが見られる場合は、訂正を促す。
ワークシート③	・高齢者の疾患の特徴について()に記入することができる。 (小テストで一部誤りがある。)	・高齢者の疾患の特徴について()に適切に記入することができる。 (小テストで正確に用語を書くことができる。)	・どこに書くのが分からず動きが止まっている時には、板書を指さし、ワークシートの記入場所を教え記入を促す。
ワークシート④	・系・器官の解剖図を書き写し、各部の名称を記入できる。機能については、大まかな内容を記載している。	・系・器官の構造と機能について要点を抑えまとめることができる。	・系・器官の解剖図を書くことができる。各部の名称は、線を書いて書き写すよう促す。

(2) 思考・判断・表現

小単元(1)は厚生労働省の公表している『平均寿命や健康寿命の推移』のデータを用いる。ワークシート①にグラフを読み取った内容と現象の背景を考えさせ記入させる。記入内容を確認し「思考・判断・表現」の評価を行う。生徒の思考の一助として厚生労働省の人口動態統計『死因別に見た死亡率の年次推移』などの資料も提示し、感染症による死亡率の低下や悪性新生物や心疾患、肺炎、脳血管疾患による死亡率の上昇に気付かせ、背景を考えさせる。また、それぞれの考えを発表させることで「思考・判断・表現」の評価を行う。発表を聞き、自分が気付かなかった部分はワークシートに記入させることで思考を深めさせる。

小単元(3)は、高齢者に多い疾患について系毎にグループを作り、個人の調べ学習とグループ活動を組み合わせることで学びを深めさせる。「①系に含まれる器官の構造と機能」は、既に学習している分野のため個人で調べまとめることができるはずだが、生徒によっては力の差が生じることもある。そこで、グループ内で知識の確認をし合い、自分に不足しているところを見つけ出し、補足するという過程を設ける。教員の観察による評価と生徒の自己評価を合わせて行うことで、生徒自身に、復習の必要性や繰り返

し学ぶことの必要性に気付いてもらうよう働きかける。次に、「②高齢者がかかりやすい各系の代表的な疾患」を1人1つずつ調べまとめさせる。器官のどの部位に支障が生じることで発生する疾患なのかを調べることで疾患の成り立ちを学ぶことができ、あわせて利用者を介護する上での注意点について気付くことができる。各グループでは各々が調べた疾患について発表し合い、その後、系毎の援助方法の共通点を予測させ、疾患ごとの介護の方法を書籍等にて調べまとめさせる。この過程を経ることで、根拠に基づく介護方法の理解を促すことができる。次に、クラス全体を対象とする発表会を開き、質疑応答をすることでクラス全体の知識・思考過程の共有を図る。最後に、生徒に自分の調べ学習とグループ内での学習状況について自己評価させる。また、学習前と学習後で自分がどのように変わったかを振り返らせ、「思考・判断・表現」の評価に反映する。

	「おおむね満足できる」状況 (B) * 学習活動に即した評価基準	「十分満足できる」状況 (A) と判断した具体例	「努力を要する」状況 (C) と判断した生徒への指導の手立て
ワークシート①	<p>・平均寿命と健康寿命の推移を見ると 2001 年より 2013 年までの間、男女とも平均寿命および健康寿命は伸びていることが分かる。また、女性の方が男性に比べて平均寿命は長く、長生きすることが分かった。</p> <p>* グラフの大まかな推移は把握することができるため B とする。</p>	<p>・平均寿命と健康寿命の推移を見て 2001 年から 2013 年までの間、男性は平均寿命が 78.07 歳から 80.21 歳と伸びており、健康寿命も同じように 69.40 歳から 71.19 歳と伸びている。また、平均寿命および健康寿命の差は 8.67 歳から 9.02 歳と少しではあるが増えていることが分かる。</p> <p>一方女性も、平均寿命は 84.93 歳から 86.61 歳と伸びており、同じく健康寿命も 72.65 歳から 74.21 歳と伸びている。</p> <p>平均寿命と健康寿命の差は男性では約 9 年であり、女性の場合は約 12 年である。つまり、女性の方が長寿ではあるが、男性に比べ介護期間が長いことが分かる。</p> <p>* 健康寿命と平均寿命の差が何を表しているのか読み取ることができるため A とする。</p>	<p>グラフの見方が分からず戸惑っているときは、縦線が年齢、横線が年度、黒線が平均寿命、赤線が健康寿命であることを確認し、一つ一つ年度ごとの推移を見て分かることを記入するよう促す。</p>
	<p>『死因別に見た死亡率の年次推移』のグラフから、増加した死因は何か、減少した死因は何かをとらえ、なぜそのような状態になったのか大まかな予想ができる。</p>	<p>『死因別に見た死亡率の年次推移』のグラフから、疾病構造の変化について把握し、その理由について適切に考えることができる。</p>	<p>グラフで示しているものが何か、縦線横線、折れ線のそれぞれがあらわすものを一つ一つ確認し、増減の状態を把握するよう促す。死亡率の変化はなぜ起こったのか、時代背景とともに考えさせる。</p>
ワークシート④	<p>【課題 1】「こころとからだの理解」で学んだ系に所属する器官の構造と機能をそれぞれまとめ、その後、グループ内で発表し、知識を確認し合う。</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> ・器官の構造と機能についてまとめたものを発表している。 ・他者の発表を聞いて、自分のワークシートに補足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・器官の構造と機能についてまとめたものを正確に発表している。 ・他者の発表を聞いて、自分のワークシートに正確に補足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の説明を聞いて、自分に不足している部分に気付かせ、補足を促す。
<p>【課題2】系ごとの代表的な疾患についてそれぞれが調べ、その後、グループ内で発表し、知識を共有し合う。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な疾患の原因・症状について正確に調べている。 ・他者の発表を聞いて、異なる疾患についておおまかな記入ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な疾患の原因・症状について正確に調べている。疾患の原因については、どの部位がどのように変化することで生じるのか理解している。 ・グループ活動の司会進行ができる。 ・他者の発表を聞いて、異なる疾患の要点を正確に記入している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な疾患について、教科書や参考書のどの部分に記載されているかを一緒に探し記入を促す。 ・他者の発表の要点を記入するよう促す。
<p>【課題3】系における疾患について共通する介護を検討する。また、それぞれの疾患ごとの具体的な介護方法を一緒に考える。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ・系における疾患で共通する介護方法を予測することができる。 ・具体的な介護方法を調べ、要点を記入できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・系における疾患で共通する介護方法は何か予測することができる。また、自分が調べた疾患の介護に興味を持ち、積極的に調べようとしている。 ・積極的に具体的な介護方法を調べ、正確に要点を記入している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いに参加するよう促す。 ・グループ内で出た意見を記入するよう促す。 ・具体的な介護方法がどこに書かれているのか、一緒に探し、要点を記入するよう促す。
<p>【課題4】自分たちが調べた内容をクラス内で発表し、質問に答える。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ・発表ができる。質問に誠実に答えようとする姿勢が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・堂々と発表し、質問に的確に答えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声でしっかりと説明するよう促す。
ワークシート⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種の役割を理解している。どのような関わりができるか、おおまかに考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種の役割を理解しており、その上で事例においてどのような関わりができるのか考え、明確に記入している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような職種の人が利用者の周りにいるのか確認し、職種ごとの役割を確認する。事例の理解を補助し、多職種の人がどのように関わられるのかを一緒に考える。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

小単元1において、グラフを読み変化の背景を考え、記入する課題を行うが、主体的に課題に取り組んだかを観察および生徒の自己評価により評価する。

小単元3においてはワークシートへの取組、グループ活動、発表を行う。教師による観察および生徒自身の自己評価によって「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

	「おおむね満足できる」状況 (B) * 学習活動に即した評価基準	「十分満足できる」状況 (A) と判断した具体例	「努力を要する」状況 (C) と判断した生徒への指導の手立て
ワークシート① ②	調べ学習に向き合うことができる。	積極的に調べ学習を行う。話し合いの場でも、疑問点を積極的に解明し、理解しようとしている。	項目ごとに一つ一つ向き合うよう促す。
ワークシート⑤	調べ学習に向き合うことができる。	積極的に調べ学習を行う。話し合いの場でも、疑問点を積極的に解明し、理解しようとしている。	項目ごとに一つ一つ向き合うよう促す。

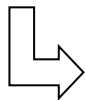
5 観点別評価の総括

評価の総括の場面として単元ごと、学期末、学年末等が挙げられる。(A)「十分満足できる」(B)「おおむね満足できる」(C)「努力を要する」とし、その評価結果の組合せに基づいて総括する。評価は小単元ごとで行い、評価の対象とする内容についても統一してA、B、C等の数値に置き換える。A=3点、B=2点、C=1点として点数化し、各観点別の合計点を各基準の数で除した数値の平均値で示す。平均値 2.5 以上がA、2.0 以上 2.5 未満がB、2.0 未満がCとして評価する。

	知識・技術		思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度		
	ワークシート	テスト	観察	演習	ワークシート	テスト	観察	発表	自己評価
(1)①②			A (3)		B (2)	B (2)	A (3)	B (2)	A (3)
(1)③④	A (3)	B (2)							
(2)①②	B (2)	B (2)							
(3)課題1	A (3)		B (2)		B (2)		B (2)	B (2)	B (2)
課題2	A (3)		B (2)		A (3)		B (2)		B (2)
課題3			B (2)		A (3)		B (2)	B (2)	B (2)
課題4							B (2)	B (2)	B (2)
(4)			A (3)	A (3)	A (3)				
定期考査		A (3)				A (3)			
合計	15		33				30		
平均点	2.14 (B)		2.54 (A)				2.14 (B)		

ワークシート④の具体例

【()系 器官 ()】 *解剖図を描いて、名称を書き加えよう。	*器官の役割をまとめよう。
【疾患名 ()】	
①原因 ②症状 をまとめよう。	③介護のポイントを記入しよう。
【疾患名 ()】 ()さん調べ	
①原因 ②症状	③介護のポイント
【疾患名 ()】 ()さん調べ	
①原因 ②症状	③介護のポイント
系に共通する介護は何か考えてみよう。	



ワークシート④ 疾患と介護について理解を深める。 学籍番号() 氏名()	
<p>【()系 器官(心臓)】</p> <p>*解剖図を描いて、名称を書き加えよう。</p>	<p>*器官の役割をまとめよう。</p> <p>心臓は全身に血液を送り出すポンプの役割をしている。1回の拍出量は70ml</p> <p>右心房 右心室→肺動脈→肺</p> <p>左心房 左心室→大動脈→全身</p> <p>心臓は栄養と酸素を全身に送り出すポンプの役割をしている。心臓は肺動脈から肺に血液を送り出し、肺動脈から全身に血液を送り出す。</p>
<p>【疾患名(狭心症)】</p> <p>①原因 ②症状 をまとめよう。</p> <p>①原因: 冠状動脈の血流低下や心臓への酸素の供給が不足することによる。</p> <p>②症状: 胸痛(数分~15分以内、ニトグリセリンで症状は治る)</p> <p>左心房、左心室の肥大、血行不良</p>	<p>③介護のポイントを記入しよう。</p> <p>胸痛時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・椅子を揺らし椅子を倒し、ニトグリセリンの舌下投与をする ・胸痛が30分以上続くときは医療機関へ <p>日常生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暴飲暴食、飲酒、タバコを長時間の吸入 ・過労、緊張を避ける、精神的ストレスを減らす。
<p>【疾患名(心筋梗塞)】 (A)さん調べ</p> <p>①原因 ②症状</p> <p>①冠状動脈の閉塞により心筋が壊死を起す。</p> <p>②強い胸痛(20分以上、ニトグリセリンが効かない)、呼吸困難、冷汗、意識障害</p>	<p>③介護のポイント</p> <p>胸痛時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・椅子を揺らし椅子を倒し、ニトグリセリンの舌下投与をする ・胸痛が30分以上続くときは医療機関へ <p>日常生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狭心症から進行型へ移行する ・生活習慣の改善、ストレスの軽減が重要
<p>【疾患名(高血圧)】 (B)さん調べ</p> <p>①原因 ②症状</p> <p>①動脈硬化により、末梢血管の抵抗が上がり、血圧が上昇する。</p> <p>高血圧、動脈硬化、脳卒中、心臓病、糖尿病、脂質異常症</p> <p>③頭痛、肩こり、めまい、目の充血など</p>	<p>③介護のポイント</p> <p>生活習慣の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塩分、脂肪、アルコールの摂取を減らす ・運動、禁煙、ストレス解消など ・薬を正しく服用する
<p>系に共通する介護は何か考えてみよう。</p> <p>心臓は、過度の運動により負担が重くなるため、心臓の状態は常に注意が必要。</p> <p>血圧は動脈硬化により狭くなるため、生活習慣の改善が必要。</p>	

福祉科 「介護総合演習」事例6

キーワード

調査研究の実施における「知識・技術」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の一考察

単元名

地域福祉についての調査・研究

〔指導項目〕

(3) 調査, 研究, 実験

本単元では、科目の目標を踏まえ、生徒自身が主体的に課題を設定し、その解決を目指して、「社会福祉基礎」や福祉に関する他の科目などで学習した知識と技術を活かして調査や研究、実験を行うことにより、課題解決の能力や自発性・創造性を高めることができるようにすることをねらいとしている。

1 単元の目標

- (1) 調査、研究、実験などを通して、地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けること。
- (2) 地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決すること。
- (3) 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組むこと。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
調査、研究、実験などを通して、地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画 (39時間)

時間	【ねらい】・学習活動	評価		備考 (評価規準・ 評価方法)
		観 点	記 録	
小単元1【新型コロナウイルス感染症が高齢者の生活に及ぼす影響を把握し、課題の仮説を立てる】				
1	(1) 問題提起	思	○	・新聞記事の概要をまとめ、現状を理解し、なぜ外出頻度が減ってしまったのか。外出頻度が減少することによって生活はどのように変化したのか考え、適切に記述することができる。 ワークシート① 観察
2	『外出 月1, 2回45% S市の75歳以上の1人暮らし』の記事を提示。新型コロナウイルス感染症により後期高齢者の生活がどのように変化しているのか考える。			

3 4 5	<p>(2) 問題の解釈</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症によって、どのような身体的・精神的・社会的弊害が生じるのか調べ、グループで話し合い、まとめ、発表する。また、社会活動の低下とフレイルの関係に気付くことができる。 	知 態	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症が高齢者に及ぼす影響について理解している。 ワークシート② 新型コロナウイルス感染症による弊害を協働的に学び合おうとしている。 ワークシート② 話し合い 発表 観察 自己評価表
6 7 8	<p>(3) コロナフレイルについて理解しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門家（医師）より、コロナフレイルについて講義をいただき、理解する。 ①フレイルとは何か ②フレイル予防に大切なこと ③新型コロナウイルス感染症と高齢者 	知 態	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> フレイルについての理解を深め、予防のために何をすべきか学ぶことができる。また、一人暮らしや社会活動の低下がフレイルと関連する要因であることを理解する。 ワークシート③ 定期考査 講話を聞いて、疑問に思う点を積極的に質問する。 ワークシート③ 観察 自己評価表
小単元2【地域の現状を把握し、課題を明確にする。】				
9 14	<p>(1) 地域の現状はどうであろうか</p> <p>S市のデータを参考に、自分たちの学校のある地域ではどのような状態になっているのか、情報収集の必要性に気付く。</p> <p>(2) 自分たちにできることは何か</p> <p>地域の実態を把握し、問題を明確にすることで、自分たちに何ができるのか考え、今後どのような活動を行うのか計画する。</p> <p>(3) 地域の現状調査について①</p> <ul style="list-style-type: none"> ①項目を考え、アンケート用紙を作成する。 ②調査方法の検討 ③アンケート調査実施時の接遇について 	思 主	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 地域の高齢者の実態を調査し、課題を明確化させ、対策を検討することができる。 ワークシート④ グループワークや接遇マネー研修に積極的に参加する。 観察 自己評価表

小単元3【自分たちにできる取り組みについて考え、検証する。】			
15 16 17	<p>(1) フレイル予防の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> 理学療法士, 言語聴覚士より自宅でできるフレイル予防の実際を講義, 実技指導していただく。 ①フレイルについて ②食べる仕組み ③誤嚥性肺炎, 窒息について ④家庭でできるタオル体操の実技 ⑤家庭でできる口腔体操の実技 	知 態	<p>○ ・フレイル予防には他者とのつながり, 毎日の運動, 口腔ケア, 食事が大切であることを理解することができる。 ワークシート⑤</p> <p>○ ・積極的に運動に参加し, 留意点を学び, 積極的に疑問に思う点を質問する。 観察 ワークシート⑤ 自己評価表</p>
18 21	<p>(2) 地域の現状調査② <u>フィールドワーク</u></p> <p>社会福祉協議会協力のもと, 地区の区長, 民生委員とともに, 家庭訪問による調査を行う。</p>	思 態	<p>○ ・民生委員とともに家庭訪問し, 高齢者との関わりを持つことで, コミュニケーションの取り方や人と人の関わり方の温かさに気付くことができる。また, 地域の実態, 民生委員の役割を考察することができる。 ワークシート⑥</p> <p>○ ・フィールドワークに積極的に参加し, また高齢者とのコミュニケーションについて意欲的に学ぶ。 観察 自己評価表</p>
22 25	<p>(3) 地域の現状調査③ <u>フィールドワーク</u></p> <p>地域の介護教室へ参加し, 直接話を聞きコロナフレイルについての調査をする。また, 講師に教えてもらったコロナフレイル予防体操を実施する。</p> <p>※家庭訪問とは別の地区の介護教室に参加し, 調査を行う。</p>	思 態	<p>○ ・高齢者との関わりを持つことで, コミュニケーションの楽しさを知る。</p> <p>○ ・コロナ予防体操を実際に行うことで, 説明の仕方, 体操の難易度, 危険の有無など確認することができる。 ワークシート⑦</p> <p>○ ・フィールドワークに積極的に参加し, また高齢者とのコミュニケーションについて意欲的に学ぶ。 観察 自己評価表</p>

26 く 29	(4) アンケート調査のまとめ 集まったアンケート用紙を集計し、実態を把握する。	知	○	・数値をデータにまとめ、表やグラフに表現することができる。 表計算ソフトの活用
		思	○	・調査の結果から、地域の実態を把握することができる。 データ分析資料
30 く 33	(5) DVD作成 ①ロコモ体操の練習・撮影 ②口腔体操の練習・撮影 ③タオル体操の練習・撮影	思	○	・どのような解説を行うか考え、分かりやすい説明を工夫する。体操が安全に行えるよう内容を工夫する。 ワークシート⑧
		態	○	・DVDの作成に積極的に取り組むことができる。 観察 自己評価表
小単元4【自分たちの取り組みを振り返り、課題解決方法を評価し考察する。】				
34 く 39	(1) DVD配付 <u>フィールドワーク</u> 調査に協力いただいた方々へ現状を訪ね、DVDを配付し、活用を促す。 (2) 考察・まとめ 調査研究の考察・まとめを行う。	思	○	直接、挨拶をしてDVDの説明をし、配付することができる。 調査研究の過程及び考察をレポートにまとめることができる。 レポート（研究のまとめ） 自己評価表 定期考査

本事例は時事問題となっている新型コロナウイルス感染症の後期高齢者への影響を踏まえ調査研究することで、課題解決の能力や自発性・創造性を高めることを目的としている。「社会福祉基礎」「介護福祉基礎」「こころとからだの理解」等、福祉に関する他の教科で得た知識を関連づけ、課題を明確にし、科学的根拠に基づいた解決方法を考え、実践していく過程で「知識及び技術」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成すべき資質・能力を身に付けさせる構成となっている。

小単元1は、新型コロナウイルス感染症が高齢者の生活に及ぼす影響を把握し、課題の仮説を立てることをねらいとした。新聞記事の読解や調べ学習、医師による講義から、既存の知識と統合させ理解を深めることを想定しており、「知識及び技術」の評価を行うこととした。また、そこから、どのような課題が生じ、生活に影響を与えるのかを考え、まとめる過程を設けることで「思考・判断・表現」の評価を行い、グループ活動にて話し合いの場を設けることで、課題に対して前向きに取り組む姿勢を「主体的に取り組む態度」として評価している。

小単元2は、地域の現状を把握し、課題を明確にすることをねらいとした。研究計画書の作成をグルー

プで行うことで、「思考・判断・表現」を評価することを設定した。また、活動における意欲や自分の発言・行動を自己評価することで、「主体的に活動に取り組む態度」の評価を用い、生徒の行動の変容を促すこともねらいとした。

小単元3は、自分たちができる取組について考え検証することをねらいとした。理学療法士や言語聴覚士から科学的根拠に基づく支援の実際の講義を受け「知識及び技術」の評価に反映し、得た知識と技術を提供する対象に合わせ検討することで「思考・判断・表現」の評価を行うこととした。また、地域の実態把握について、社会福祉協議会、区長、民生委員の協力を得ることで、実際に地域の方々と触れあい、温かさや一人暮らしの辛さを知ることが可能となり、自分に何かできることはないかと主体的に考えるきっかけとなっている。「主体的に活動に取り組む態度」を評価するだけでなく、人として、成長する機会が得られる効果に期待したい。

小単元4は、自分たちの取組を振り返り、課題解決方法を評価し考察することをねらいとしている。調査研究の過程をまとめ、取組を考察する過程で「思考・判断・表現」の評価を行うこととした。考察の過程で、持続可能な関わりの必要性に気付くことができ、主体的のみではなく協働的に関わることの必要性についても気付き、今後の活動に反映されることが期待できる。

4 観点別評価の進め方

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
フレイルに陥る危険性や特徴的な症状、予防方法について理解しているとともに、予防するための具体的な援助方法を身に付けている。	地域の実態を把握するために、どのような調査をすべきか考え、実際に調査活動ができる。また、調査に基づく地域の特徴から、どのような援助内容が問題解決に効果的かを考え表現することができる。	地域調査や問題を解決するための援助方法について、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

(1) 知識・技術

小単元1においては、はじめに新型コロナウイルス感染症が高齢者にどのような影響を及ぼすのか参考書（「こころとからだのしくみ」「介護福祉基礎」等）やインターネットを用いて自分で調べること、要点をまとめワークシート②に記入することを「知識・技術」の評価ポイントとする。また、専門職（医師）の講話を聞き、自分が調べたことと照らし合わせながら新型コロナウイルス感染症が高齢者に与える影響をまとめ、根拠についても理解しているかも評価の規準とする。

小単元3においては、専門職（言語聴覚士・理学療法士）の講話に基づき、食べる仕組みを正しく理解したか、食べる仕組みに支障が生じることで起こる弊害について理解したか、予防するための方法について理解したか、を評価のポイントとする。また、集めたデータを「福祉情報」の授業で学んだ表計算ソフトを用いて集計し、分かりやすい形で表す力を「知識・技術」の評価項目としている。

	「おおむね満足できる」状況 (B) * 学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況 (A) と判断した具体例	「努力を要する」状況 (C) と判断した生徒への指導の手立て
ワークシート②	参考書、インターネット等を活用して新型コロナウイルス感染症が高齢者に及ぼす影響についておおむねまとめることができる。	参考書、インターネット等を活用して新型コロナウイルス感染症が高齢者に及ぼす影響について、身体的・精神的・社会的弊害について整理しまとめることができる。	参考書、インターネット等にかかれていることの要点のまとめ方を助言し、記入を促す。

ワークシート③	講話を聞いて、フレイルとは何か、フレイル予防に大切なこと、新型コロナウイルス感染症と高齢者との関わりについておおむね理解し、要点が記入されている。	講話を聞いて、フレイルについて概要を理解しているだけでなく、身体面・精神面・社会面での影響を正しく理解している。なぜ、高齢者がフレイルの状態に陥りやすいのか根拠についても理解し、記入されている。また、事前に調べたことで疑問に感じたことを質問できる。	講師が提供した資料に基づき、項目ごとにまとめるよう促す。
ワークシート⑤	食べる仕組みについて、嚥下機能の低下により引き起こされる誤嚥性肺炎、窒息についておおむね理解している。また、講話を聞いて、家庭でできる口腔体操、上肢・下肢・体幹運動の仕方を理解している。	食べる仕組みを理解することで、各段階に支障が生じた際の問題を明確に理解している。講話から、科学的根拠に基づく機能訓練の実際及び効果を理解している。	資料を基にワークシートに記入するよう促す。講師に教えてもらった運動がどの部位に影響を与え、どのような効果があるのか共に考える。
表計算ソフトの活用	データを入力し、グラフを作成することができる。	データを入力し、年代ごと、外出頻度ごとの特徴を捉えることができる。	データ入力の仕方、グラフの作成の仕方を指導する。データ分析の仕方を助言する。

(2) 思考・判断・表現

小単元1は、新聞記事を読解し課題の仮説を立てるまでをねらいとしていることから、ワークシート①を用いて概要のまとめから課題の仮説までを記入させ、思考過程及び思考の深さに応じて評価する。また、ワークシート②では、「知識・技術」の評価も行うが、3～4名の小グループを作り各々が調べたことを発表させ、まとめられているかを確認し、「思考・判断・表現」の評価の一助とする。知識の標準化を図ることを目的とし、今後の調査活動に繋げる役割を果たしている。

小単元2は地域の高齢者の実態を調査し、課題を明確にすることを目的としているが調査項目の検討、調査方法の検討において考え判断しまとめることができたかを評価する。

小単元3においては、フィールドワークを通して得た情報を分析し、自分たちにできる取組について検討しまとめることを目的としている。そこで、家庭訪問や介護教室において地域住民と関わることで、正しく情報を記入するのみでなく、相手の背景、思い、求めている事柄からどのような手立てが必要か、自分たちにできることは何か考えられることが求められる。そこで、ワークシート⑥⑦を活用して、思考過程や判断力、表現力を評価している。

小単元4では調査研究の評価・考察を目的としているため、レポートの内容により評価している。

	「おおむね満足できる」状況 (B) *学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況 (A) と判断 した具体例	「努力を要する」状況 (C) と判断 した生徒への指導の手立て
ワークシート①	記事の概要をまとめ、外出頻度の減少が高齢者にどのような影響を与えるのか考えることができる。	記事の概要をまとめ、現状を踏まえた上で、なぜ外出頻度が減ってしまったのか、外出頻度が減少することにより生活がどのように変わってしまったのかを考え、そこから生じる課題を、根拠に基づき明確に表現している。	一つ一つの項目について、新聞記事に線を引き、書き写すよう促す。書いたものから矢印をつけさせ、生活がどのように変化するか考えるよう促す。
ワークシート④	地域の現状調査をするための①項目を考えることができる。②調査方法を考えることができる。③実際の調査時の話し方、態度について考えることができる。	地域調査をするための①項目を他地域との比較が可能なように考えることができる。②地域の社会資源を活用した調査方法を考えることができる。③調査時の心構え、対象者に対する姿勢、言葉遣い、態度について考えることができる。	地域調査をするための①項目について新聞記事に書かれているデータをもとに考えるよう促す。②調査方法を考えさせる。③初めて会う人に話を聞くときにはどのような態度や話し方が求められるか考えさせる。
ワークシート⑥	アンケート聴取時に、正しく情報を記入することができる。また、話を伺うことで、地域生活をしている人の背景、思い、求めていることを考えまとめることができる。民生委員の役割についてまとめることができる。	地域住民と関わることで、正しく情報を記入するのみでなく、相手の背景、思い、求めていることから、どのような手立てが必要か、自分たちにできることは何か、考えることができる。民生委員の役割及び地域住民との信頼関係の築き方をまとめることができる。	アンケート項目を一つ一つ正確に尋ねるよう促し、聞き忘れが無いよう確認させる。対象者が話したことを記入させ、どのような意味があるのか確認する。民生委員と地域住民の方との関係を知るため、会話の内容や表情の記入を促す。
ワークシート⑦	介護教室に集まった人の概要を理解し、アンケート調査を確実に行うことができる。コミュニケーションを取る上で必要なことを考え、まとめることができる。コロナフレイル予防体操を実施し、高齢者が行う上での課題に気付くことができる。	アンケート調査を確実に行うことができる。コミュニケーションを取りながら相手の背景、思い、求めていることを把握し、どのような手立てが必要か、自分たちにできることは何か、考えることができる。コロナフレイル予防体操を実施し、高齢者が行う上での課題及び工夫点を考えることができる。	アンケート項目を一つ一つ正確に尋ねるよう促し、聞き忘れが無いよう確認させる。対象者が話したことを記入させ、どのような意味があるのか確認する。コロナフレイル体操を一つ一つ正確に実施できるよう助言する。

データ分析資料	データをまとめ、そこから分かる内容を記述することができる。	データがどのような意味を持っているのか考え、まとめることができる。	データから分かることを箇条書きに一つ一つ書くよう促す。
ワークシート⑧	今までの体験をもとに、DVDを作成する上でどのような解説を行うのか考えることができる。コロナフレイル予防体操が、安全に行えるよう気を付ける点を記入できる。	今までの体験をもとに、DVDを作成する上で、どのような解説を行うのか考えることができ、分かりやすい解説について工夫することができる。コロナフレイル予防体操が、安全に行えるよう工夫できる。	DVDを作成する上でどのような解説を行うか、一つ一つの動作ごとに考えるよう促す。実際に動いてみて危険がないか確認させる。
レポート（研究のまとめ）	項目に沿って記入でき、調査の結果分かったことや、すべきことを考察することができる。	研究のまとめができ、調査研究の結果から、継続して支援することの必要性や、具体的対応について思考を深めている。	項目に沿って一つ一つ記入するよう助言し促す。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

教員は活動の様子を観察し、発表の様子と合わせて評価を行う。また、生徒自身が課題への取組について自己評価できるようワークシートに欄を設け評価に反映する。

5 観点別評価の総括

評価の総括の場面として単元ごと、学期末、学年末等が挙げられる。(A)「十分満足できる」(B)「おおむね満足できる」(C)「努力を要する」とし、その評価結果の組合せに基づいて総括する。評価は小単元ごとで行い、評価の対象とする内容についても統一してA、B、C等の数値に置き換える。A＝3点、B＝2点、C＝1点として点数化し、各観点別の合計点を各規準の数で除した数値の平均値で示す。平均値 2.5 以上がA、2.0 以上 2.5 未満がB、2.0 未満がCとして評価する。

	知識・技術		思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度		
	ワークシート	テスト	観察	演習	ワークシート	テスト	観察	発表	自己評価
小単元1(1)			A (3)		B (2)				
小単元1(2)	A (3)						A (3)	B (2)	A (3)
小単元1(3)	A (3)	B (2)				A (3)	A (3)	B (2)	B (2)
小単元2(1)			A (3)	B (2)	A (3)		B (2)	B (2)	B (2)
小単元3(1)	A (3)						A (3)		A (3)
小単元3(2)			B (2)		A (3)		B (2)		B (2)
小単元3(3)			B (2)		A (3)		B (2)		B (2)
小単元3(4)	A (3)			A (3)	A (3)				
小単元3(5)					A (3)		B (2)	B (2)	B (2)
小単元4(1)		A (3)			A (3)	A (3)			
合計	17		41				41		
平均点	2.83 (A)		2.73 (A)				2.28 (B)		

ワークシートの具体例

新聞記事

外出 月1, 2回 45%

S市の75歳以上の一人暮らし

75歳以上の一人暮らしの高齢者を対象に行った調査結果が書かれた記事

外出頻度, 日中の主な過ごし方などが書かれている

【ワークシート①】

新型コロナウイルス感染症の流行により一人暮らしの高齢者の生活はどのように変わってしまったのかまとめなさい。また, 記事を踏まえ, あなたの考えを書きなさい。

課題への取り組みについて自己評価をし, ○をつけてください。

- A しっかりとまとめ, 自分の考えを客観的に述べることができた。
- B よくまとめ, 自分の考えを書くことができた。
- C 書いてあることは分かったが, まとめたり, 自分の考えを書くのは難しい。

	評価Bの例	評価Aの例	評価Cの例
解答	75歳以上の一人暮らしの人が月に1, 2回しか外出していないことに驚いた。自宅に引きこもることで, 筋力が低下したり認知症が進んだりといろいろな問題が生じてくると思う。大変なことだと思う。	S市は75歳以上の一人暮らしの高齢者に対し, 外出頻度, 日中の過ごし方についての調査を行った。その結果, ほとんど外出しない人が16.6%, 月に1, 2回外出する人が28.5%であることが分かった。日中の過ごし方も, 主にテレビを見て過ごす人が最も多く, 59.6%だった。S市は, 外出を促し, 健康づくりができるよう工夫し働きかけたいとしている。 この記事より, 新型コロナウイルス感染症は, 高齢者にとって脅威であり, 多くの人が外出を控えていること, 家庭内でテレビを見て過ごすという受動的な生活を送っていることが分かった。他者との交流が減少することにより, 身体面・精神面での機能低下が生じる恐れがあり, 長期にわたって継続することで, フレイル状態を引き起こし, 認知症の進行など生活のQOLが低下する恐れが高いと考えられる。地域における福祉に関わる課題と考え, 訪問指導, 介護教室の開催など早急な対策が必要と考える。	外出の頻度が月に1, 2回の人が45%もいることに驚いた。外出しなくても生活できるのは良いことだと思うが, 楽しみが少ないと思う。
	記事の概要をまとめ, 外出頻度の減少が高齢者にどのような影響を与えたのか, 考えることができるが, 個人的な感想に終わっている。地域福祉の問題として考え, 解決策を取り上げるに至っていないため, 「おおむね満足できる」状況(B)とする。	記事の概要がまとめられ, 新型コロナウイルス感染症により, 生活がどのように変わってしまったのかまとめられている。また, そこから生じる課題を明確にし, 対策の必要性を感じ, 対策の具体例を述べているため「十分満足できる」状態(A)とする。	見出しに基づくまとめをしている。外出しないことが高齢者にどのような影響を与えているのか考察が浅いため, 「努力を要する」状況(C)とする。

【福祉部会作成委員】

熊谷 直美	宮城県教育庁高校教育課指導主事
千葉 美奈子	宮城県迫桜高等学校教諭
伊藤 優子	宮城県小牛田農林高等学校教諭
田村 沙織	宮城県登米総合産業高等学校教諭